

奈良国立大学機構と両大学の取り組みについて、
今回は、主に、3 月の動きを中心にお伝えします。

—————▼お知らせの種類▼—————

- A. 両大学共通イベント B. 奈良教育大学の取組
C. 奈良女子大学の取組 D. 榊理事長から

//////////▼注目 Topics▼//////////

- 【A-1】機構アドバイザーの絹谷幸二氏が「画家としてのオリジナリティ」について講演
【A-2】機構アドバイザーの反田恭平氏が「音楽とともに歩むー奈良から世界に向けてー」と題し講演
【A-3】機構アドバイザー 森雅彦氏（DMG 森精機株式会社 取締役社長）との対話イベントを開催
【A-4】西村いくこ理事が「みどりの学術賞」を受賞
【B-1】ESD 国際シンポジウム in 奈良 2024 を開催
【C-1】令和 5 年度卒業式並びに学位記授与式を挙

//////////

A. 両大学共通イベント

- 【A-1】機構アドバイザーの絹谷幸二氏が「画家としてのオリジナリティ」について講演（12/21）

https://www.nara-ni.ac.jp/news/2023/240308_1.html

- 【A-2】機構アドバイザーの反田恭平氏が「音楽とともに歩むー奈良から世界に向けてー」と題し講演（1/16）

https://www.nara-ni.ac.jp/news/2023/240308_2.html

- 【A-3】機構アドバイザー 森雅彦氏（DMG 森精機株式会社 取締役社長）との対話イベントを開催（3/13）

<https://www.nara-ni.ac.jp/news/2023/240319.html>

- 【A-4】西村いくこ理事が「みどりの学術賞」を受賞

<https://www.nara-ni.ac.jp/news/2023/240322.html>

B. 奈良教育大学の取組

【B-1】ESD 国際シンポジウム in 奈良 2024 を開催 (2/17)

https://www.nara-edu.ac.jp/ESDC/esd_sdgs/esd_in_2024.html

【B-2】「文部科学省受託事業：教員研修の高度化に資するモデル開発事業」の取組の様子が NHK 奈良 NEWS WEB に掲載 (2/21)

<https://www.nara-edu.ac.jp/news/2024/02/media0221.html>

【B-3】ESD・SDGs センター 及川幸彦 副センター長のインタビュー記事が WEB サイト「Yahoo Japan SDGs」に掲載 (3/12)

<https://www.nara-edu.ac.jp/news/2024/03/interview0312.html>

<開催案内>

○令和 6 年度奈良教育大学入学式

日時：令和 6 年 4 月 3 日（水）

学部 10：00～ / 大学院 11：30～

場所：奈良教育大学講堂

<https://www.nara-edu.ac.jp/event/university/r6entrance.html>

C. 奈良女子大学の取組

【C-1】令和 5 年度卒業式並びに学位記授与式を挙行 (3/22)

https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2023news/20240326_1.html

<開催案内>

○令和 6 年度入学宣誓式

日時：令和 6 年 4 月 4 日（木）

学部 10：00～/ 大学院 14：00～

場所：学部 講堂/ 大学院 記念館講堂

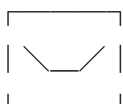
https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2023news/pdf/20240306_2.pdf

○佐保塾講演会「叡尊 興法利生の願い 日本にこんな人がいた！」

日時：令和 6 年 4 月 13 日（土）13：30～15：30

場所：佐保会館 2 階ホール

https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2023news/img/20240307_2.jpg



D. 奈良国立大学機構 榊理事長から

アインシュタイン博士は、1905 年、光電効果、ブラウン運動、相対性理論に関する革命的論文を矢継ぎ早に発表し、物理学の世界に衝撃を与えた。その 100 年後、2005 年は「世界物理年」と呼ばれ、各国は記念行事を行ったが、日本では、物理学の振興のために、高校生向けの物理学の全国コンテストを初めて実施した。翌年以降、海外での国際物理オリンピック大会に代表選手 5 名を派遣しており、約 80 か国の 400 名の高校生が交流し、物理学の理論問題と実験問題に 5 時間ずつ取組み、知恵比べすることを続けている。数年前の大会では東大寺学園の渡辺君が全参加者の首位になるなど、日本の高校生は健闘しているが、米・露・中・韓の高校生たちは毎回上位を占めており、各国関係者の力の入れ方が窺われる。

他方、この国際物理オリンピックの日本開催を望む声が寄せられたため、関係者が協議し、2022 年に開催することを 2015 年に決定した。その後、コロナの影響で 2023 年に延期されたが、当初、2022 年を開催年としたのは、その 100 年前の 1922 年にアインシュタイン博士が来日し、各地で講演を行い、日本の学界や知識人に大きな影響を与えたことに因んでいる。博士の日本滞在には、多くのエピソードがあり、奈良訪問の際、奈良ホテルで備え付けのピアノを楽しんだことや春日神社で神鹿に深々とお辞儀したことなどが語り継がれている。

さて、国際物理オリンピック日本大会は、2023 年 7 月に東京代々木のオリンピック記念青少年総合センターで開かれ、世界各地からの高校生が一週間に亘って実り豊かな交流を行い、筆者ら教育関係者にとっても気づきの場となった。特に、全選手が男子である国も多い中、ウクライナなど女性選手比率が高い国も相当数あり、大いに考えさせられた。なお、大会運営では、大学の教職員と院生などに加え、100 名ほどの語学に堪能な学部生ボランティアも活躍しており、若手の国際交流の場ともなった。また、約 4 億円の経費の半分は国に提供頂き、残りは団体・個人からの寄付と参加者負担で賄った。貴重な協力に深く感謝したい。

▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲

バックナンバーは以下よりご覧いただけます。

<http://www.nara-ni.ac.jp/news/narakoku/index.html>

また、学内掲示板以外のメールでの配信をさせていただいている方で、配信停止をご希望の方は、お手数ですが、

somu02@jimu.nara-wu.ac.jp まで、その旨お知らせください。

▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲